

■野中婉 医者。野中兼山の娘。父の尊厳回復を胸に生涯孤高。谷泰山が『詩文小町の妙、経術大家の風』と激賞。

のなかえん

・・・・・・1660＝ 土佐国高知城追手門内の野中家で、池氏を母に、藩執政野中兼山の三女に生まれる。

殉死禁止・・1663＝ 3歳：父兼山が失脚して、急死。

・・・・・・1664＝ 4歳：藩は野中家に父の追罰として一家を取潰し、子女8人は土佐の西の果て宿毛の山中に監禁される。山内左衛門佐の厳重な監視のもと、子孫ができないように、子女全てが結婚も禁止されるなか、

酒井忠清大老1666＝ 6歳：

入鉄砲出女令1667＝ 7歳：すでに嫁いでいたものの、親の罪によって、離縁させられていた長姉米が死去、

ジャクシャインの乱 1669＝ **9歳**：

謫居中、兄とともに学問を怠らず、経書を修め、詩歌を詠じ書をよくし、

藤十郎登場・1678＝**18歳**：

越後騒動・・1679＝19歳：長兄一明が死去。

徳川綱吉將軍1680＝20歳：

八百屋お七・1683＝23歳：次兄明継が悶死。

生類憐令始・1687＝**27歳**：三兄継業の才能を愛した谷泰山が、勇敢にも幽居を訪れて、皆を励ましてくれ、以後、谷泰山について通信教授をうけ、谷から『詩源小町の妙・経術大家の風』と激賞されるようになる。

生類憐令頂点1695＝35歳：

重秀勘定奉行1696＝**36歳**：

吉保大老格・1698＝37歳：三兄継業も死去し、男子が死に絶えたこともあって、

40年を同地で過し、

曾根崎心中・1703＝43歳：*残された姉と妹とともに、赦免されて高知に帰り、郊外朝倉村に居を構えるが、助けてくれる者も無く窮乏、他人と接するの障子の破れ穴からという状況に、急遽、医術や薬物の書を勉強、

団十郎刺殺・1704＝44歳：生母池氏が死去。

御蔭参流行・1705＝**45歳**：

『越鞠丸』という売薬をつくり、かつての父の部下伊藤益右衛門に売らせて生計を立て、患者を訪れると、手首についた糸によって襖越しに脈をみたが、それがよく当たって『野中の糸脈』として伝わる。仕官者の検診を最も嫌い、藩からの自立を求め、8人扶持も辞するつもりだったが、老母と乳母のために受ける。*獄中での決心に応える旧臣らの援助によって、香美郡野地村の古楨重矩の隣の地に祠堂を建て、野中一門と兼山に殉死した古楨次郎ら旧忠臣を祀り、『お婉堂』として現在に伝わる。また、荒廃していた野中家の墓地を修理して立派な墓石を建て、祭典を催して、血涙絞る祭文を奉った上、『野中祠堂記』を著した。

徳川綱吉没・1709＝49歳：

また人一倍の美人ながら、終生結婚せず、『ひたすら亡き肉親の祭祀に従い、道で藩老に会っても駕籠を避けることをせず、避けようとする輿丁をしかって『われ兼山の娘なり』といったという気概をもち、

絵島事件・・1714＝**54歳**：

徳川吉宗將軍1716＝56歳：

・・・・・・1719＝59歳：碗に会った藩の役人が『お碗さまは30代の女の肌をしてられる』といった言葉も記録されている。

生涯、眉を落さず齒を染めず、振袖姿のままでも過し、外出は夜に限り男装して小刀を腰に一人で歩いて、

火の見櫓制・1723＝**63歳**：

・・・・・・1725＝65歳：没した。

著に『朧夜の月』がある。号を安履亭・責趾亭・柳陰という。